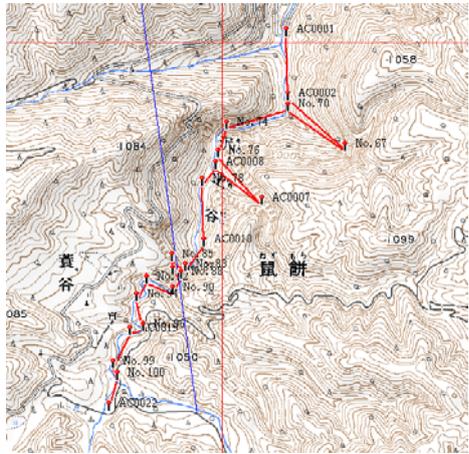


# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 丸山敏文

山名	沢登り <small>そうれだに</small> 沢上谷	山行名	例会	
ルート	9月19日 新田辺－高山市－恵比須之湯－幕営地点（県道89号沢上谷合流H750m） 9月20日 幕営地横から入溪－五郎七郎滝－岩洞滝－蓑谷大滝－15mナメ滝－二俣遡行終了点			
山行日	平成25年9月19日～20日	天候	晴れ時々曇り	
参加者	リーダー：丸山 サブリーダー：鈴木正範 会計：徳田幸子 男性：3名 佐坂茂美 クライミング指導：中島貞夫 女性：1名 合計：5名			
ルート概略図	コースタイム			
	地名	時：分	地名	時：分
	幕営地	出 7:10	高巻降下開始	始 11:50
	入溪	入 7:15	降下終了	終 12:40
	五郎七郎滝	着 8:05	15m	着 12:43
		岐 8:40	ナメ滝	発 12:44
	岩洞大滝	着 9:30	二俣	着 13:20
		岐 9:55	遡行終了	発 13:37
	蓑谷大滝	着 10:25	幕営地点	着 13:57
		発 10:55	(自転車)	発 14:16
	高巻降下点 上部(昼食)	着 11:20	二俣	着 14:33
		発 11:50	(車)	発 14:55
	山行報告	岐：沢上谷本流との分岐点		
	<p>高山市のスーパーで夕食の食材を補給、岐阜県高山市上宝町鼠餅の沢上谷の幕営地の途中にある村のひなびた恵比須之湯に入浴。分水嶺の峠を越え、遡行終了地点に自転車をデポ、幕営地に16時に到着。テント設営し、焼きそば、剣先いかの刺身、げその塩焼きと豪華な食事でした。たき火の木組みは上手く出来ているのに小枝は燃え上がるが太い木には着火しないので、鈴木さんのガスコンロのヘッドを近づけ直接炎を当てたが燃え上がらなかった。満月を待ちながら燻るたき火を囲み、詩吟、謡曲を聴かせていただいた。</p> <p>20日、夜露に濡れたテントを干し、沢装備でテント場近くから入溪。水量はいつもより多く、水温も下がっていて最初にドボンすると冷えてくる為、膝以下の水深を選び五郎七郎滝分岐に到着。この右岸入口の滝は高さ12m苔でツルツルのスラブ。左に巻き道がつけられたところ登るが、中島さんは中央から取付き成功。さすが奥穂縦走の師匠。入口から25分で五郎七郎滝、2カ所のスラブ状の岩から糸をひいたように優雅に流れるナメ滝を見てみんな歓声。本流に戻り夏なら泳いで楽しむ小滝の淵を巻きナメを歩き15分で岩洞大滝の入口、岩登りの感で枝沢を詰めると巨大な壁が取巻き壮観である。佐坂さんは壁の模様を彫刻したようだと、自然の造形に関心。本流に戻り、水流が強くなった所はカニの横這いで通過。すぐ、巨大なスラブを白い波紋を描きながら流れ落ちる蓑谷大滝に出る。左岸を高巻し、昼食後、残置ロープを使いブルージックで下降。中島さんに2本目のロープに移る中間点まで降りていただき次のロープに移る時の安全指導をしてもらい全員無事、箕谷大滝落下口上部に降り立つ。ここからナメが延々と続き自然林から植林に変わり小さな橋が出てくると遡行終了。中島さん、鈴木さん、佐坂さん、徳田さんご協力ありがとうございました。</p>			
ヒヤリハット	なし			

## 感想文

### 初めての沢登り 沢上谷（そうれだに）

佐坂茂美

およそ 20 年程前、丹沢山に登り始めた頃「沢登」を知った。 なんの予備知識も無く唯漠然と「一度 やってみたいな」という気持ちを何故か持ち始めていた。

今年のイベントに既報の「穂高縦走」があった。 トレ等を通じて中島さんや丸山さんと近しく言葉を交わす機会に恵まれ、この気持ちを伝えながら「やってみよう」という気持ちが醸成されるのを感じました。



そして「かなび」の案内原稿を丸山さんから頂いた時に躊躇なく直ぐに申込をさせて頂きました。 ところがどんな装備をしたらよいのか全く知らない事を告げると 時間を割いて頂き大阪までご一緒頂きシューズ、スパッツを買い求めました。 厚かましついでに「すみません。 初めてで何も分かりませんから、一度どこかでトレーニング沢登をやっ頂けませんか」とお願いした処、これも了解頂き 野洲川上流の猪足谷で 沢シューズを履き少し濡れながら沢を歩いてきました。

(写真は猪足谷でのトレ風景)

9月19日午前8時、いよいよ本番（例会）に向けて出発。 さてどんな沢がまっているやら。 YouTube で見た限り、滝つぼにはまりずぶ濡れになり滝を登りといった画面が気持ちを高ぶらせました。 幕営予定地でテントを張り、丸山さんに殆ど全て準備して頂いた夕食（野菜炒め+焼きそば）で腹を満たし差し入れて頂いた焼酎で喉を潤し就寝。



### 9月20日

天候は快晴に近い晴天です。 朝食を済ませ、シューズを履き、スパッツを付け用意して頂いた2m程の木をストック替りに握りしめ「入溪」。 この言葉も今回初めて覚えました。

膝下程度の水深部分を歩き、水中の石に体重をかけ慎重に進みます。 河底は「ナメ」という表現だそうですが、私に言わせると舗装道路のように滑らかな上を流れる水に足を付け歩くのは「楽しさ」以外の何物でもありませんでした。 途中で聞くと 山では☆の数で難易度や危険度等を表現しますが 沢登では1級、2級という風



な表現を使うそうです。

因みに今回の沢上谷は1級で最も優しいコースだそうで、後日調べましたら6級まであるそうです。だから私でも楽しく歩けたのかも知れません。そして新しく覚えた言葉が「ゴルジュ＝両側の岸壁が狭まっている溪谷」でした。

遡行途中、五郎七郎の滝、岩洞の滝、蓑谷大滝（写真）と沢を登らないと見られない滝にも連れて行って頂きました。蓑谷大滝は見事でした。落差30～40m（？）の迫力は甘南備山にある「吉しゃんの滝」とは比較になりませんでした。この写真の前で集合写真や個々の写真を撮りましたが、これからが大変でした。沢から上がり高巻の為でしょうか、直登が待っていました。

登り切った後は蓑谷大滝の上部に行くために全長50mはあろうかと思われる2本のフィックスロープを掴みブルージックを使い、ハーネスやチェストハーネスを使っ  
ての3点確保の下降でした。これも今年のトレのお蔭で乗り切れました（下りきれました？）  
滝の最上部を覗いた後は登りの再開。やがてゴール地点に到着し橋上に出ました。ゴール地点では前日デポして頂いていた自転車で車を取りに幕营地迄往復して頂き、なにからなにまで全てお世話になりました。



少し紅葉し始めたかと思わせる木の葉、清水魚住まず思い起こさせる程の透き通った清水。水しぶきを浴びることもあり初めての楽しい沢登りを体験させて頂いた丸山さんに大感謝です。

こんな事も「山岳」の一部にあるとは……。次の機会には全身を滝つぼに沈めてみたいと感じさせてくれました。

今一度、全てを準備して頂いた丸山さん、同行して頂いた中島さん、鈴木さん、徳田さんにお礼を言います。有難うございました。次の機会には同行者が増える事を願っています。

